

# 大学ボクシング選手から見た日本のアマチュアボクシングの現状と将来

## The Present and The Future of the Japanese Amateur Boxing from Viewpoint of Collegiate Boxers

1K04A252-7

吉田 小百合

指導教員

主査 中村千秋先生

副査 間野義之先生

### 【緒言・目的】

私はアマチュアボクシングに関わってきた中で、「アマチュアボクシングの認知度を上げて、普及をしたい」という関係者達の声をよく聞いた。しかし、地域単位での競技の認知度をあげようとする動きは見られるが、社団法人日本アマチュアボクシング連盟を中心とした組織としての活動はなされていない印象を受ける。これは、関係者達は「アマチュアボクシングは魅力的なスポーツなので、より多くの人に知ってもらい、そして、たくさんの人にやって欲しい」という漠然とした気持ちや願いをもってはいるが、積極的な行動には踏み出さない理由が何かあるのではないかという疑問を抱いた。そこで、本研究では、この疑問に答えを出し、さらに対応策を提案することを目的とし、大学ボクシング選手にアンケート調査を行った。

### 【方法】

- 1) **対象者:** アマチュアボクシング関東大学リーグ戦出場校の日本大学、法政大学、中央大学、専修大学、早稲田大学、慶応大学、東京大学、一橋大学、青山学院大学の男性ボクシング部員を調査対象とし、回答に不備のない 88 名を有効回答とした。
- 2) **調査期間および調査方法:** 2007 年 11 月上旬から中旬にかけて調査を実施した。各大学の主務や主将と電話で連絡を取り、アンケートの回答方法について十分に説明をした後、対象者の所属する大学にアンケート用紙を郵送し、無記名により自己記入方式で全ての質問に回答するように求めた。他に練習後に集まってもらい、手渡しでアンケート用紙を渡し、その場で回答してもらった大学もあった。
- 3) **アンケート内容:** アマチュアボクシングに対する満足度や普及などに関する 15 項目とした。

### 【結果・考察】

対象者はアマチュアボクシングという競技自体に楽しみを見出だし、強くなりたいという目標を持っているということがわかった。というのは、アマチュアボクシングにはそれぞれのレベルに合わせた大会がいくつもあるため、高校以前から競技を始めた人も、大学から競技を始めた人も各々の目標を持って、楽しめるという背景があるからではないだろうか。同時に減量や怪我など悩みは多いが、たくさん得るものもあり、ボク

シングを続けてきたことに対して満足している人が多かった。

また、対象者はアマチュアボクシングを好んで観戦しているが、関係者以外にその魅力を伝えるのは難しいと感じていることがわかった。KO はボクシングの醍醐味であると言えるが、アマチュアボクシングは、安全性を追求してルールを変更してきたため、KO の数が著しく減った。このことから、対象者にはアマチュアボクシングの魅力を一般人には理解してもらえないだろうという固定観念が根付いてしまっているのではないか。このことが、認知度を上げるための活動がなされていない原因ではないかと考える。しかし、試合の運営をプロモーション会社に依頼することにより、その魅力を万人受けするような形で引き出してもらえるのではないかと考えられる。

対象者はアマチュアボクシングの競技人口を増やしたいと考えているが、自分の子供たちには積極的に勧めたいとは思わない傾向にある。この理由としては、危険性が高いということと、減量があるということが挙げられた。自分が苦しんだことを子供たちにさせたいとは思わないのは当然であろう。アマチュアボクシングを子供たちに勧められるような競技にするためには、安全性の追求が必要だろう。しかし、安全性ばかりを考慮しすぎると選手達の闘争心を損なう恐れがあり、ボクシングの本質をゆがめることになりかねない。これらのバランスを考慮した上で、選手の健康と安全を最大限に守る環境作りの実現が必要であると言えるだろう。

### 【まとめ】

大学ボクシング選手は、競技を行ってきたことに満足し、アマチュアボクシングをもっと多くの人に知ってもらいたいと思っている。また、ボクシングをやりたいという気持ちを持っているが、危険だから自分の子供にはやらせたくないという意識も持っている。このことが、普及活動が積極的に行われていない原因であると考えられる。

これらを解消するために、アマチュアボクシングの魅力をプロモーション会社によって最大限に引き出してもらったり、ボクシングの本質をゆがめることなく、選手たちの健康と安全を最大限に守る環境づくりの実現が急務と言えよう。